

タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4614		
科目名	危機管理特殊研究 4		
担当教員	勝股 秀通		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 4		
講義室	1211	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-F 〔探求力・課題解決力〕 問いを設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP5-J 〔創造的挑戦力・達成力〕 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP6-K 〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L 〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M 〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■CRコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E1 学識と専門技能（15%） F1 探求と論拠（20%） F2 課題解決（10%） J1 継続的学修基盤（10%） K1 ライティング・コミュニケーション（10%） K2 オーラル・コミュニケーション（10%） L1 チームワーク（15%） M1 統合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	担当教員は長年、全国紙の新聞記者として外交・防衛など安全保障問題を専門に取材し、報道に携わってきたほか、様々な事件や事故、自然災害の現場取材も豊富で、簡潔かつ平易、そして何よりもわかりやすい表現や言葉で多くの人々に情報を伝えるかについて熟知しています。危機管理学部での学修を締めくくる特殊研究3と4では、そうした経験に基づき、研究生が論文をまとめる上で必要なノウハウを具体的に指導します。特に7回目以降の論文指導では、わかりやすい文章とは何か——を示しながら、実務経験に基づき論文の書き方を具体的に指導します。		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期～4 定着期		

科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付けるための指導を行います。学生個人のキャリア形成にもつながるよう、学生自身が危機管理に関する具体的な業務、資格などに関する専門的な研究を行い、実務教員が中心となり実践的な指導を行います。危機管理に関する知識や教養を養うだけでなく、危機管理において必須となるコーディネート、マネジメントに必要な調整能力を身に付けることを目標とします。ここでは、各自の研究テーマで研究計画に基づいたレポートを執筆し、完成させるための論文指導を行います。授業形式は演習形式で行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード：現場に近づく、自分の疑問を大切に、最後までやり抜く	
授業の趣旨	■副題 「どうして」「なぜ」を大切に続けよう ■授業の目的 自分で選んだ研究テーマに対して、研究生は多くの情報を収集するとともに、常にたくさんの「なぜ」や「どうして」を持ち、それを解決しながら研究を進め、説得力のある「解」を見つけ出すことを目的とします。 ■授業のポイント 演習では「災害」や「情報」、「グローバル」など研究生の研究テーマごとにチームを作り、発表などを通じてお互いの進捗状況などを確認し、刺激し合いながら進めていきます。	
総合到達目標	■選択した研究テーマについて、「なぜ」「どうして」の「解」が見つかるまで、あきらめずに調べ、理解することができる。 ・なぜこんなことが起きているのか。どうして改善されないのか。そうした疑問をたくさん持って研究に取り組むことができる。 ■研究テーマについて、インタビューやフィールドワークなどによって、個性ある論文作成を目指せるようになる。 ・論文作成の過程を通じて、問題解決のプロセスを提示できるとともに、簡潔かつ平易な表現による論文を作成することができる。	
成績評価方法	■論文またはレポートの内容（80%）適用ルーブリック E 1、F 1、F 2、J 1、K 1、M 1 （評価の視点） しっかりとした根拠を示したうえで、論理立てた構成で文章が作成されているか等々の観点から評価します。 （フィードバックの方法） 個別に論文指導します。 ■授業参加度（20%）適用ルーブリック K 2、L 1 （評価の視点） 他の研究生の発表に対して、質問や情報提供などを通して適切に対応しているか評価します。 （フィードバックの方法） 授業中に適宜指導します。	
履修条件	研究テーマに関して、調査、分析する作業においては決して妥協しないこと。	
履修上の注意点	特にありません。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 資料収集など研究方法への支援Ⅰ ②授業概要 研究生は、各々の研究テーマに対して、夏期休暇中を含め、これまでに取り組んできた内容について発表するとともに、教員はその内容を補足修正し、今後はどのような手法を取り入れてゴールを目指すのか。研究手法について最終的な説明をする。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。（J 2、M 1、K 1、K 2） ③予習（120分） 研究テーマに関して、夏期休暇中の進捗状況について説明できるように準備する。 ④復習（120分） 発表を終えた研究生は、自分の研究計画について補足、修正する。
	2	①授業テーマ 資料収集など研究方法への支援Ⅱ ②授業概要 研究生は、各々の研究テーマに対して、夏期休暇中を含め、これまでに取り組んできた内容について発表するとともに、教員はその内容を補足修正し、今後はどのような手法を取り入れてゴールを目指すのか。研究手法について最終的な説明をする。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り

	入れる場合があります。(J2、M1、K1、K2) ③予習(120分) 研究テーマに関して、夏期休暇中の進捗状況について説明できるように準備する。 ④復習(120分) 発表を終えた研究生は、自分の研究計画について補足、修正する。
3	①授業テーマ 資料収集など研究方法への支援Ⅲ ②授業概要 研究生は、各々の研究テーマに対して、夏期休暇中を含め、これまでに取り組んできた内容について発表するとともに、教員はその内容を補足修正し、今後はどのような手法を取り入れてゴールを目指すのか。研究手法について最終的な説明をする。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。(J2、M1、K1、K2) ③予習(120分) 研究テーマに関して、夏期休暇中の進捗状況について説明できるように準備する。 ④復習(120分) 発表を終えた研究生は、自分の研究計画について補足、修正する。
4	①授業テーマ 論文構成の講評Ⅰ ②授業概要 研究生(毎回4人程度)は論文及び卒業レポートの目次を提示する。担当教員は、その構成について講評します。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。(E1、F1、F2、K1、K2) ③予習(120分) 論文構成に基づき論文を執筆する。 ④復習(120分) 論文構成についての論評を取り入れながら論文を執筆する。
5	①授業テーマ 論文構成の講評Ⅱ ②授業概要 研究生(毎回4人程度)は論文及び卒業レポートの目次を提示する。担当教員は、その構成について講評します。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。(E1、F1、F2、K1、K2) ③予習(120分) 論文構成に基づき論文を執筆する。 ④復習(120分) 論文構成についての論評を取り入れながら論文を執筆する。
6	①授業テーマ 論文構成の講評Ⅲ ②授業概要 研究生(毎回4人程度)は論文及び卒業レポートの目次を提示する。担当教員は、その構成について講評します。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。(E1、F1、F2、K1、K2) ③予習(120分) 論文構成に基づき論文を執筆する。 ④復習(120分) 論文構成についての論評を取り入れながら論文を執筆する。
7	①授業テーマ 論文指導Ⅰ ②授業概要 研究生(毎回6人程度)は目次に沿った研究の進捗状況を説明する。自ら不足している研究項目についても説明する。担当教員は実務経験に基づき、それぞれの論文内容について補足、修正を指導します。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。(E1、F1、F2、J1、K1、K2、M1) ③予習(240分) 研究テーマに必要な調査、分析等を行いながら、論文を執筆する。 ④復習(240分) 指導に基づき、論文を執筆する。
8	①授業テーマ 論文指導Ⅱ ②授業概要 研究生(毎回6人程度)は目次に沿った研究の進捗状況を説明する。自ら不足している研究項目についても説明する。担当教員は実務経験に基づき、それぞれの論文内容について補足、修正を指導します。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替

	するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。（E 1, F 1, F 2, J 1, K 1, K 2, M 1） ③予習（240分） 研究テーマに必要な調査、分析等を行いながら、論文を執筆する。 ④復習（240分） 指導に基づき、論文を執筆する。
9	①授業テーマ 論文指導Ⅲ ②授業概要 研究生（毎回6人程度）は目次に沿った研究の進捗状況を説明する。自ら不足している研究項目についても説明する。担当教員は実務経験に基づき、それぞれの論文内容について補足、修正を指導します。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。（E 1, F 1, F 2, J 1, K 1, K 2, M 1） ③予習（240分） 研究テーマに必要な調査、分析等を行いながら、論文を執筆する。 ④復習（240分） 指導に基づき、論文を執筆する。
10	①授業テーマ 論文指導Ⅳ ②授業概要 研究生（毎回6人程度）は目次に沿った研究の進捗状況を説明する。自ら不足している研究項目についても説明する。担当教員は実務経験に基づき、それぞれの論文内容について補足、修正を指導します。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。（E 1, F 1, F 2, J 1, K 1, K 2, M 1） ③予習（240分） 研究テーマに必要な調査、分析等を行いながら、論文を執筆する。 ④復習（240分） 指導に基づき、論文を執筆する。
11	①授業テーマ 論文指導Ⅴ ②授業概要 研究生（毎回6人程度）は目次に沿った研究の進捗状況を説明する。自ら不足している研究項目についても説明する。担当教員は実務経験に基づき、それぞれの論文内容について補足、修正を指導します。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。（E 1, F 1, F 2, J 1, K 1, K 2, M 1） ③予習（240分） 研究テーマに必要な調査、分析等を行いながら、論文を執筆する。 ④復習（240分） 指導に基づき、論文を執筆する。
12	①授業テーマ 論文指導Ⅵ ②授業概要 研究生（毎回6人程度）は目次に沿った研究の進捗状況を説明する。自ら不足している研究項目についても説明する。担当教員は実務経験に基づき、それぞれの論文内容について補足、修正を指導します。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。（E 1, F 1, F 2, J 1, K 1, K 2, M 1） ③予習（240分） 研究テーマに必要な調査、分析等を行いながら、論文を執筆する。 ④復習（240分） 指導に基づき、論文を執筆する。
13	①授業テーマ 論文指導の総括 ②授業概要 担当教員は実務経験に基づき、研究生全員に対して、論文作成上の最終チェックと体裁の統一などを説明します。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。（K 1, L 1, M 1） ③予習（240分） 研究テーマに必要な調査、分析等を行いながら、論文を執筆する。 ④復習（240分） 指導に基づき、論文を執筆する。
14	①授業テーマ 特殊研究1～4の振り返り ②授業概要 特殊研究という学びの中で達成できたこと、未達成だったことなどについて2年間の

	演習を振り返りながら研究生同士で議論する。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。（J 1, L 1, M 1） ③予習（60分） 各々の研究テーマで得た知識をまとめ、他の研究生に対し説明できるようにしておく。 ④復習（60分） 論文発表に向けて準備する。
15	①授業テーマ 卒業論文及び卒業研究の発表 ②授業概要 すべてのゼミ生は研究の動機、研究の目的、研究の成果についてしっかり確認しながら、自らの論文や研究についてプレゼンテーションする。なお、授業概要の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。（J 1, L 1, M 1） ③予習（60分） 各々の研究テーマで得た知識をまとめ、他の研究生に対し説明できるようにしておく。 ④復習（60分） 論文集の制作で使用する最終データをしっかり整える。
関連科目	「危機管理基礎演習Ⅱ RMGT2602」（2年次後期配当） 「危機管理特殊研究1・2・3 RMGT4611～13」（3年次前期、後期、4年次前期配当）
教科書	特にありません。
参考書・参考URL	研究生に適宜指示します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 開講時に告知します。その他の時間にはメール等で連絡を取り、研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント15%：パブリックセキュリティ15%：グローバルセキュリティ15%：情報セキュリティ55% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%

